

グリーンサークル28号

クローズアップ 須田協
 活動団体クローズアップ クリスマスリース作り
 多摩市グリーンボランティア連絡会
 多摩市みどりのかわら版 田口桃代



ツリバナ

～クローズアップ～

雑木林の活動と作業道具 なな山緑地の会 須田 協

現在多摩市内には、雑木林の保全育成のために、グリーンボランティア活動を行っている団体が幾つもあります。活動場所は、公園内或いは昔からの雑木林(里山)で、樹木の手入れ・草刈りを中心に活動を行っています。

雑木林は、かつて防風林であったり、薪や炭を作るなど日常生活に密着したのも多く、現在とは異なった状況です。雑木林に限らず、森林は手入れをしないと放置林となり、薄暗くなって雑草すら生えず、植物の根により保持されている斜面の土は雨により流されてしまい、ゆるい地盤では木も倒れ、風通しの悪さから病気や立ち枯れてしまうことにもなります。一方、若い木には勢いがあり、当然より多くのCO₂を吸収し、温暖化防止に一役貢献しています。雑木林を保全育成し若返らせることは、とても意味があると思います。

グリーンボランティアの団体が、市内各地区で継続的に活動し、楽しみながら雑木林や緑地の手入れや木材・竹の有効活用に取り組んでいます。以前、東京西部の桧原村・奥多摩の荒れた人工林の手入れを手伝っていましたが、現在は地元多摩市内、和田の「ななやま緑地の会」と豊ヶ丘の杜の「フレンドツリーサポーターズ」を中心に活動しています。雑木林にはコナラ・ヤマザクラ等の広葉樹や様々な草花があり、保全育成する上で病気や日照不足を補うた

めに樹木の伐採をして間引きをします。発生したヤマザクラをそのまま放置するのが厄ひ難く、広場の休憩用テーブル・ベンチの材料に再利用しようとして計画しました。丸太からテーブルにする過程(伐採・製材・運搬・加工)の中で運搬が特に難点でした。伐採から半年乾燥させた丸太を、簡易製材機とチェンソーで長手方向に分割して半割り丸太にし、ワイヤー索引機などでキャタピラ式運搬車に乗せ、ふもとの広場まで降ろしました。半割り丸太とはいえ直径40～50cm、長さ2.7mで重さは100kg超ですから、人力のリヤカーでは無理でした。かといって動力機械があれば良いというものでもなく、運搬車へ積み込むのも運ぶのも、結局仲間と知恵を出し合って道具を駆使してこそ問題が解決出来たと思います。広場へ降ろした材は、鉋や皮むきヘラで硬い皮を剥がし、チェンソーで加工して同じヤマザクラの丸太脚と合体させ、ヤマザクラのテーブルが完成しました。皆で考え、力を合わせて得た感動を共有するのは格別のものがあります。雑木林の活動には、山の手入れや草刈りの他に、こういった楽しみもあります。

皆さんも、自分の体と相談しながら、自然の中で一緒に汗を流してみませんか。

須田協：1994年東京都桧原村でスギ・ヒノキの伐採などの森林ボランティアを始め、素人の技術に限界を感じ、あきる野の林業家に従事 山仕事の補助作業と引換えに技術指導を受ける。現在多摩市グリーンボランティア 講座講師。なな山緑地の会他複数の会に籍を置く週末版木こり。



ヤマザクラのテーブル



～講座クローズアップ～

クリスマスリース作り講座 一本杉公園みどりの会 櫻井 悦子

10周年記念行事企画のひとつとして始まったクリスマスリース作り講座も今年で6回目を迎えます。初めての年は、多摩市内での材料集めも何ぞの様にしたら良いかも手さぐりでした。また講座を担当するスタッフも限られましたが、“先ず自分たちが楽しもう”をコンセプトに開催しました。参加された方々には好評でした。1回限りの企画でしたが、好評だったので事務局をお願いして今に至っています。

回を重ねるごとに少しでも前年と違う材料を揃えたいと、皆買物の道すがら、散歩の時などいつも何か無いのかなあ〜と、上を見たり下を見たりしています。

集まった材料はきれいに使い易いようワイヤーを掛けたり、束ねたりします。そのままでもよいのではとの意見もありますが、準備する側が集まってワイワイおしゃべりしたり、アイデアを出し合ったりの時間に割り当てています。また子どもたちの参加もあるので、短い時間で完成させ、持ち帰るには下準備は欠かせません。

今年も月1回集まり5月から準備を始めました。多摩市内の公園や緑地でグリーンボランティア活動をしている多摩グリーンボランティア森木会のメンバーが10人程度集まって、楽しく作業をしています。

直接作業に関わらない人たちも、リース台作り

(クズで作る)など、また当日使う生のグリーン調達を事務局でと陰の力に支えられています。初年度に「よこやまの道」で沢山ラベンダーが収穫出来た事からポプリの小袋を参加者に配ったら、とても喜んだのでこれは続けなければと、ラベンダー探しも友人を頼ったりしましたが、昨年からは自由に刈れる場所へ出向いています。

多くの人の手を経て、当日を迎えます。参加者は思い思いのリース台、材料を手にも個性豊かなリースを作っていきます。

みんな楽しそうで、私達も頑張って準備をしてよかったと思う一瞬です。集めた材料は一定ですが、出来あがったリースはひとつとして同じ物がなく、それぞれの個性が光っています。

今年も個性豊かなクリスマスリースが出来あがることでしょう。みんなの作品を楽しみにしています。

どうぞ作る工程を楽しみ、完成させて欲しいと思います。出来上がった作品を大切に持ち帰る姿を見送りながら、無事に終えホッと、市内にある道端の草花、雑木林の事、グリーンボランティアの活動を広く市民に知って頂けたら幸いです。

クリスマスリース作り講座は毎年12月上旬に開催。
お問合せ：多摩市立グリーンライブセンター
042-375-8716



講座の様子

～活動団体クローズアップ～ みどりに親しむ講座の開催

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局 高澤 愛

多摩市グリーンボランティア連絡会(以下、GV 連絡会)はみどりとみずの保全等に関わる市民ボランティア 13 団体により構成され、市・大学・市民による多摩市立グリーンライブセンターの持続的な運営管理を目的とした「多摩市立グリーンライブセンター連携推進協議会」に市民ボランティアグループとして参加している団体です。市民に親しまれる多摩市立グリーンライブセンターを「集い・憩い・学びの拠点」とすることを目指し市・大学・市民の協働により運営しています。

私達、GV 連絡会事務局では、活動のひとつとして、グリーンライブセンターのコンセプトに沿って、様々な活動するボランティア団体の活動内容や活動場所を活かし、多摩市のみに興味関心が持てるような講座を開催しています。

多摩市の花、ヤマザクラの咲く頃、土から春の陽気に顔を覗かせるタケノコ。竹林を活動場所とする多摩中央公園班に協力をいただき、市民の親子向けに多摩市の竹林の現状や竹の生態を学べる講座を毎年開催しています。聞いて、触って観察することで、身近な竹の環境にも目を向けるきっかけの講座となり人気があります。

「目に青葉 山ほととぎす 初鯉」5月、グリーンライブセンターの2大イベントのひとつでもある「こどもまつり」が毎年開催されます。一本杉公園みどりの会の協力により子どもたち向けに竹馬や竹笛などの竹細工づくりをしています。時代と共に様々な素材のおもちゃが広まる中、竹という自然素材を使い、自分の手で作るという体験は現代ではなかなかできない事もあり、子ども達が熱心に作る様子が印象的です。

また、雑木林の若葉がまぶしい6月には、柔らかいホオノキの葉を使って岐阜県の郷土料理、朴葉寿司講座を亀ヶ谷緑地班の協力で開催しています。参

加者は実際に亀ヶ谷緑地で葉を採取して、オリジナルの具材を包み朴葉の香りを楽しみます。

9月にはドングリ工作、12月にはクリスマスリース作りの講座を開催しています。市内の雑木林の恵みを使って作品を作ります。木の実によって大きさや質感、形、色が様々ですから、参加者も材料選びから楽しそうです。

また、同じ季節に市内の大きな樹を巡る講座も開催しています。市内を何百年も見守ってきた樹木の威風堂々とした姿にパワーを感じることができる人気の講座です。

このように、GV 連絡会の主催する講座では、講座を通じて参加者に身近なみどりに目を向け楽しんでもらうと同時に、みどりの現状を感じとり、親しんでもらうことを大切にしています。そのため、なるべく使用する材料は講座当日に現地を見て、感じて、触って、採取をします。時に参加者からヘルメットを装着して雑木林に入ることに驚かれることもあります。講座が終わるときには皆さん実際に入らないとわからない雑木林に入って、興味の幅が広がったと喜ばれます。

また、一般の方が入りにくいゾーンに参加者が入ることには、日ごろ活動をしている現地の団体にとっても良いことがあります。ひとつは参加者の新鮮な視点が、その後の活動の励みに繋がることで、もうひとつは不思議と雑木林もみんなの笑顔に迎えようと枝葉を元気に伸ばし元気に輝いて見えることです。

私達GV事務局はこれからもグリーンライブセンターを市民の「集い・憩い・学びの拠点」としていくと同時に、みどりを通じて多摩市内で活動する団体、市民の橋渡しをしていきたいと思えます。市民の視点やぬくもりこそ、みどりを元気に未来へ維持できる秘策だと私は考えるからです。



ドングリ工作



朴葉寿司講座・亀ヶ谷緑地で朴葉つみ



講座で使用する木の実



こどもまつり・竹水でっぼう

多摩市みどりのかわら版

みどりの拠点づくりに向けて
公園緑地課 田口 桃代

グリーンライブセンターの庭をご覧になったことはあります。建物の南側にあるガーデンは、バラやハーブなどの洋風花壇を基調とし、一方、多摩中央公園につながる周囲の林には、山野草の咲く散策路や和風の水琴窟、竹林などがあって、小さいながらも様々な植物をみることができます。



バラ「ラ・レーヌ・ヴィクトリア」

九月の初め、散策路ではシモバシラや萩が咲き、丸いつぼみの秋明菊も開きはじめました。これから、ヒガンバナやホトトギス、サフラン、ツバキなど秋らしい風情の花が咲いていきます。

秋も深まると木々が赤、黄、茶に色づき、ガーデンでは秋バラや宿根サルビアが見頃を迎えます。散策路でカサカサと落ち葉を踏む音がして振り向くと、陽だまりの中をキジバトが歩いていることも。ウッドデッキのテーブルでは静かに読書やスケッチをしている人がいます。

年が明けると、温室北側のロウバイが咲いていち早く春を告げます。枯れ草色の林でも木々の芽が動き出し、福寿草やマンサク、庭のクリスマスローズ、クロッカスなど順々に咲いていきます。

三月に入ると花壇は一齐に賑やかになり、訪れる人も増えます。カラフルなチューリップやラッパ水仙の間を子ども達がかけて回って楽しそうです。

青葉の季節には、木々の足元でコバノタツナミ、アジュガ、斑入りナルコユリ、ヒメイズイなどが地面を覆うように咲きます。ガーデンではバラが見頃を迎え、たくさんの人が美し

い花や香りを楽しみます。エントランス前にも鉢植えやコンクリートポールに絡ませたバラがあり、朝、開館前から散歩や通勤の人達の目を楽しませています。

夏には、ヤブカンゾウ、オニユリ、カンナなどオレンジ色の花が多く見られます。事務室脇の小さな畑ではボランティアさんが育てたトマトやナス、キュウリ、エンドウ豆、ゴーヤなどぐんぐん大きくなります。やがて蝉時雨にコオロギの鳴き声が混じり、赤と白のミズヒキが咲くと秋はすぐそこです。

こちらの庭では、桃の木の下にスイートピーが咲いていたり、イロハモミジの脇にブルーベリーがあったり、ラベンダーの近くに赤しそが生えていたり…。和も洋も、見栄え良く改良された園芸品種もいわゆる雑草も、色々な植物がのびのび育つ庭は見ているとおもしろく、魅力があります。私が働き始めた十七年前（グリーンボランティア講座・初級を計画していた頃です）からある植物もたくさんあり、園芸作業は一切していないのに、愛着だけは人一倍あります（私は事務なのです）。皆様も、是非ガーデンにいらして思いおもしろい時をお過ごし下さい。



紅葉の美しいガーデン

編集後記

この時期にしか会えないキュートな幼虫を紹介します。クロコノマチョウです。幼虫の時には黒ウサギのような姿で里山の道ばたや畑の一角に茂るまばらに生えたジュズダマ等の葉で会うことができます。食欲の秋は昆虫も同じですね。季節は変わりますが、幼虫のウサギシリーズは他に国蝶のオオムラサキも有名ですね。探してみてください。（高澤 愛）



クロコノマチョウ幼虫

表紙の絵

「ツリバナ」(ニシシギ科)
絵・内城 葉子

花は5月頃、雑木林の中でゆらゆら揺れるように咲いています。やがて薄い緑色の実を結び秋、赤く色づきます。

<プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal 受賞など
<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

多摩市グリーンボランティア通信 グリーンサークル28号

発行日:2017年10月20日

編集・発行責任:多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>